

## 資料 1 関係資料

### 中島委員（専門分野：原子炉工学）からのご意見

- ① 被覆粒子燃料の設計限界温度 1 6 0 0 °C が実験データを基にしていることを示すこと。（p 7）
- ② 定格出力 3 0 % での炉心冷却流量喪失試験で出力が低下するメカニズムが負の温度反応度係数によるものであることを示すこと。（p 8）
- ③ 燃料体の耐震重要度分類及び安全重要度分類の設定の考え方を示すこと。（p 1 1 及び 1 5）
- ④ 降下火砕物と他の事象との重畳を検討している旨記載すること。（p 3 8）
- ⑤ H T T R の停止について制御棒が重力落下するので電源が必要ない旨示すこと。
- ⑥ 火災防護対象ケーブルの選定の考え方について示すこと。（p 4 2）
- ⑦ 原子炉建家内での可燃物管理を実施している旨を記載すること。（p 4 4）
- ⑧ 非常用発電機、直流電源及び可搬型発電機の安全重要度分類及び耐震重要度分類のクラスを示すこと。（p 4 7）
- ⑨ 無停電電源装置及び非常用発電機によるモニタリングポストの運用可能時間とその設定根拠を示すこと。（p 4 8）
- ⑩ 後備停止系を作動させるのは B D B A 事象発生後何時間以内か。また、その設定根拠について示すこと。（p 5 5）
- ⑪ 周辺監視境界でない 4 0 0 m のところで被ばく評価をしている理由を示すこと。（p 5 8）
- ⑫ 使用済燃料貯蔵施設ごとの冷却方法等の違いを示した上で、貯蔵の流れを具体的に示すこと。（p 5 9、p 6 1）
- ⑬ 現地対策本部における各グループの人数を示すこと。（p 6 3）